

NEJIREBANE, No. 102, 25. Dec. 2002

フン虫地理学 2 京都府

塚本珪一

〒606-8085 京都市左京区修学院中林町 56

はじめに

私の地元のフン虫について論ずることは、たやすいようでもっとも難しい。丁度、レッドデータの調査があったので、資料も水野弘造さんを始めとして多くいただいた。やはり、ここで京都のフン虫について述べなければならぬと思ったので一応の私見を報告する。

京都は一般的な認識としては社寺のある古都ではあるが、北部には若狭湾のある南北に長いところである。しかも、丹後と丹波高地という複雑な山地があり、原生林様相を見せるところも各所にある。鞍馬の森も鞍馬寺の方々によって保護と研究がなされ、霊宝殿ではその自然を学習できる。芦生演習林は植物学を学ぶ者は一度は訪れるという。昔から、関東の高尾山、関西の箕面、京都の貴船・鞍馬は昆虫の三大宝庫とも言われていた。

京都北山・丹波高原という、そう高くもない山々の連なりはそれなりの価値があり、多くの昆虫愛好家や学者を育み、また、京都北山はヒマラヤへの道でもあり、多くの探検家や登山者の揺籃であった。

京都府のフン虫

昔から、黄金・緑色のウシオセンチ（牛尾）＝ミドリセンチは有名であり、奈良のルリセンチとともに甲虫愛好家が一度は手にするものであった。箕面同様に鞍馬や貴船、北山にもダイコクコガネが発見できたときもあったが、今日では残念ながら絶滅危惧種としなければならない。しかし、北山や丹後には多くの未知種が生息する可能性があると思う。

京都府でも1999年よりレッドデータ調査が始まり、甲虫では「昆虫III分科会」が荒谷邦雄総括以下10名ほどで作業が続けられ、著者は食糞性コガネムシを分担した。コガネムシ上科では、水野弘造さんからのコガネムシ資料の提供を受け、リストも基礎ができ、加えて、舞鶴市立「赤れんが博物館」の黒田悠三さんの資料もいただき、さらに、虫仲間の河原正和さんのデータと検討をいただき、ようやくリストを作成できた。

京都府フン虫目録

コブスジコガネ科

- 1) *Trox mandli* BALTHASAR ヘリトゲコブスジコガネ
- 2) *Trox opacotuberculatus* MOTSCHULSKY ヒメコブスジコガネ
- 3) *Trox niponensis* LEWIS チビコブスジコガネ
- 4) *Trox kyotensis* OCHI et KAWAHARA キョウトチビコブスジコガネ
- 5) *Trox nohirai* NAKANE コブナシコブスジコガネ

アカマダラセンチコガネ科

- 1) *Ochodaeus maculatus* WATERHOUSE アカマダラセンチコガネ

ニセマグソコガネ科

- 1) *Aegialia nitida* WATERHOUSE ニセマグソコガネ
- 2) *Caelius denticollis* LEWIS トゲマグソコガネ

マグソコガネ科

- 1) *Aphodius quadratus* REICHE オオマグソコガネ
- 2) *Aphodius troitzkyi* JACOBSON マルツヤママグソコガネ
- 3) *Aphodius lewisii* WATERHOUSE コスジマグソコガネ
- 4) *Aphodius hibernalis* (NAKANE et TSUKAMOTO) クチキマグソコガネ
- 5) *Aphodius yamato* NAKANE クロツブマグソコガネ
- 6) *Aphodius urostigma* HAROLD フチケマグソコガネ
- 7) *Aphodius atratus* WATERHOUSE クロツヤママグソコガネ
- 8) *Aphodius superatratus* NOMURA et NAKANE トゲクロツヤママグソコガネ
- 9) *Aphodius maderi* BALTHASAR コツヤママグソコガネ
- 10) *Aphodius rugosostriatus* WATERHOUSE スジマグソコガネ
- 11) *Aphodius unifasciatus* NOMURA et NAKANE クロオビマグソコガネ
- 12) *Aphodius isaburoi* NAKANE チャグロマグソコガネ
- 13) *Aphodius mizo* NAKANE ミゾムネマグソコガネ
- 14) *Aphodius pallidiligonis* WATERHOUSE ネグロマグソコガネ
- 15) *Aphodius pusillus* (HERBST) コマグソコガネ
- 16) *Aphodius nigrotessellatus* (MOTSCHULSKY) セマダラマグソコガネ
- 17) *Aphodius rectus* (MOTSCHULSKY) マグソコガネ
- 18) *Aphodius elegans* ALLIBERT オオフタホシマグソコガネ
- 19) *Aphodius sordidus* (FABRICIUS) ヨツボシマグソコガネ
- 20) *Aphodius brevisculus* MOTSCHULSKY スバタママグソコガネ
- 21) *Aphodius hasegawai* NOMURA et NAKANE ヒメスジマグソコガネ
- 22) *Aphodius sublimbatus* (MOTSCHULSKY) ウスイロマグソコガネ
- 23) *Saprosites japonicus* WATERHOUSE クロツツマグソコガネ

- 24) *Petrovitzius ainu* (LEWIS) アイヌケシマグソコガネ
 25) *Psammodyus convexus* WATERHOUSE セマルケシマグソコガネ
 26) *Leiopsammodyus japonicus* (HAROLD) ヤマトケシマグソコガネ
 27) *Trichiorhyssenus asperulus* (WATERHOUSE) ホソケシマグソコガネ
 28) *Myrhessus samurai* (BALTHASAR) コケシマグソコガネ
 29) *Rhyparus azumai* NAKANE セスジカクマグソコガネ

センチコガネ科

- 1) *Bolbocerosoma nigroplagiatum* (WATERHOUSE) ムネアカセンチコガネ
 2) *Geotrupes auratus* (MOTSCHULSKY) オオセンチコガネ
 3) *Geotrupes laevistriatus* MOTSCHULSKY センチコガネ

ダイコクコガネ科

- 1) *Panelus parvulus* (WATERHOUSE) マメダルマコガネ
 2) *Copris ochus* (MOTSCHULSKY) ダイコクコガネ
 3) *Copris pecuarius* LEWIS ミヤマダイコクコガネ
 4) *Copris acutidens* MOTSCHULSKY ゴホンダイコクコガネ
 5) *Caccobius nikkoensis* (LEWIS) ニッコウコエンマコガネ
 6) *Caccobius jessoensis* HAROLD マエカドコエンマコガネ
 7) *Caccobius unicornis* (FABRICIUS) チビコエンマコガネ
 8) *Onthophagus japonicus* HAROLD ヤマトエンマコガネ
 9) *Onthophagus lenzii* HAROLD カドマルエンマコガネ
 10) *Onthophagus nitidus* WATERHOUSE ツヤエンマコガネ
 11) *Onthophagus tricornis* (WIEDEMANN) ミツノエンマコガネ
 12) *Onthophagus ohbayashii* NOMURA ナガスネエンマコガネ
 13) *Onthophagus atripennis* WATERHOUSE コブマルエンマコガネ
 14) *Onthophagus viduus* HAROLD マルエンマコガネ
 15) *Onthophagus ater* WATERHOUSE クロマルエンマコガネ
 16) *Onthophagus fodiens* WATERHOUSE フトカドエンマコガネ
 17) *Liatongus minutus* (MOTSCHULSKY) ツノコガネ

近畿圏のなかで

表1のように57種の記録となるが、都道府県の中では上位である。このことは京都府の植生、野生動物など自然環境の豊かさの現れであり、開発・整備の度が低いことでもあるだろう。このなかには絶滅危惧種またはそれに近い種も含まれるが、それらについては後で述べる。

著者は日本産フン虫を、大陸系、東洋系、固有種の3分類をしてきたが、それに従うと京都府のものは表2のようになる。

京都府のフン虫の大陸系は49%で、東洋系が14%、固有種が37%である。著者の先に報告した奈良県のフン虫(1997)で、京都府のフン虫は46種であったが、57種となると近畿圏のなかでは種数は第二位ということである。この種数が増加した理由は、文献からではなく、レッドデータの作業があり、水野さんらの資料の集積、河原正和さん

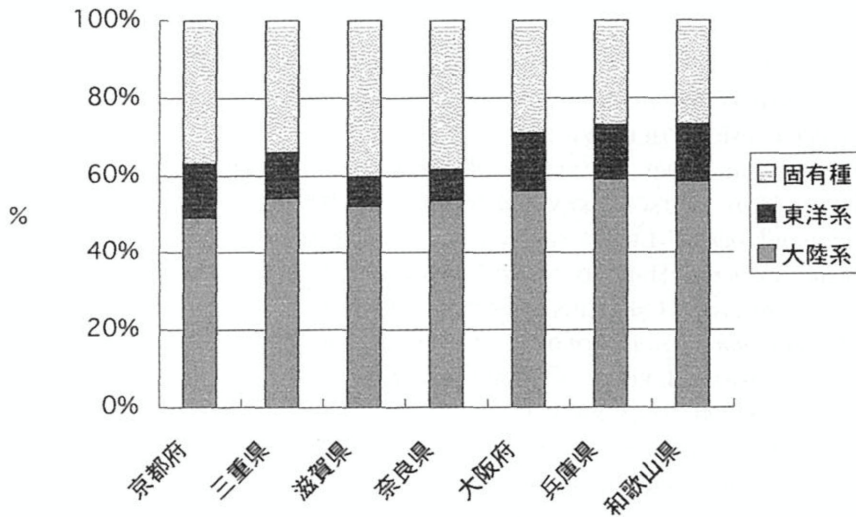
表1. 京都府のフン虫

コブスジコガネ科	5種
アカマダラセンチコガネ科	1種
ニセマグソコガネ科	2種
マグソコガネ科	29種
センチコガネ科	3種
ダイコクコガネ科	17種
合計	57種

表 2. 近畿圏フン虫の各系

	京都府	三重県	滋賀県	奈良県	大阪府	兵庫県	和歌山
大陸系	28種	27	21	32	27	30	24
東洋系	8種	6	3	5	7	7	6
固有種	21種	17	16	23	14	14	11
種数	57種	50	40	60	48	51	41

図 1. 近畿圏各系の比較



らの若手研究者の資料を入手したことによる。

滋賀県では近年、山本雅則氏の継続的な調査もあって種数も増加している。

図 1 のグラフからは、1997 年同様に、近畿圏の各系の比較では京都府と三重県、滋賀と奈良、そして、大阪府、兵庫県、和歌山県が何か類似性があるようだ。固有種の種数は京都府、奈良県が多いが、滋賀県と奈良県は固有種の占める比率が少し高い。

問題となる種について

京都府のレッドデータの作業のなかで、フン虫について問題となるものは、ダイコクコガネ、ムネアカセンチコガネ、ヤマトエンマコガネ、それに、近年発見されたキョウトチビコブスジコガネなどであった。

ダイコクコガネの記録のある近畿とその周辺の府県は、富山、愛知、滋賀、京都、和歌山、大阪、兵庫、鳥取、岡山、広島である。京都府の記録は著者の標本に、京都北山の“Kitayama, 31. VII. 1960, R. 前川, ♀” “北山 京都. 31. VII. 1964, 前川良一, ♀” がある。その後、北山での記録は途絶える。ミドリセンチで知られる牛尾山で“Ushio-yama, 19. VII. 1962, K. WATANABE, ♂” がある。京都ではミヤマダイコクコガネ、ゴホンダイコクコガネは現在も生息が確認されている。北山や丹波高原での小規模農家などに役牛の飼養があった時代はダイコクコガネの生息もあったのだろう。

兵庫の生野はダイコクコガネで有名であったが、牧場がなくなりその後の記録もないだろう。河野伊三郎氏の標本に生野の新しいものでは“20. VIII. 1983, MATSUDA, ♂”, 古いものでは河野さん採集の“14. IX. 1958, ♂” があり、生野の幾つかの標本はいずれも立派である。

著者の標本のダイコクコガネを検査して滋賀県の標本を見つけたので報告しておく。ラベルは“Miidera Temp. Shiga, 23. VII. 1959, T. FUJITA, ♀”である。

箕面は昔からダイコクコガネの産地としても知られていた。京都ではダイコクコガネを絶滅危惧種とした。

ムネアカセンチコガネも近年ほとんど見ていないが、大阪その他ではかなり生息している。また、近年、ムネアカセンチの生態が判明し、採集法も変化してきたので京都でも調査をしようと考えている。昨年8月、河原正和氏と熊本県の数カ所でムネアカセンチの調査を行った。芝原で、日没と同時に翅音が聞こえ飛翔が始まる。また、数センチの土のマウンドの下にはムネアカセンチが潜んでいた。

Trox niponensis LEWIS チビコブスジコガネは、北海道・松前小島・青森・山形・福島・茨城・千葉・東京・利島・新島・三宅島・御蔵島・神奈川・静岡・新潟・長野・石川・福井・山梨・愛知・三重・滋賀・京都・冠島・奈良・大阪・兵庫・鳥取・香川・高知・福岡・長崎・女島・鹿児島・台湾と分布は広いが、京都特産種として、近似の *Trox kyotensis* OCHI et KAWAHARA キョウトチビコブスジコガネの存在がある。京都南部の河川敷のみに生活している。そのコロニーもそう大きくない。河原氏が各地のチビコブスジを調査中であるから、分布は広がるかも知れない。

Onthophagus ocellatopunctatus WATERHOUSE アラメエンマコガネは昔、ハナアブの研究をされていた故・木村輝夫先生が網野海岸で採集されたようであるが、標本の所在が不明であるので、リストからは除外してある。たびたび *Aegialia nitida* WATERHOUSE ニセマグソコガネの調査をかねて日本海海岸を調査しているが未発見である。分布は北海道・山形・千葉・伊豆大島・新潟・兵庫であるから生息の可能性は高い。

ニセマグソコガネも近年、太平洋側にも生息することが判明し、北海道・茨城・石川・京都・和歌山・島根・山口・福岡・佐賀に記録がある。

Onthophagus tricornis (WIEDEMANN) ミツノエンマコガネも一例であり、淀川三川合流地点で記録されている。静岡・愛知・篠島・日間ヶ島・佐久島・三重・京都・鳥取・山口・高知・福岡・佐賀・大分・長崎(老岐, 平戸島), 伊王島, 馬渡島, 能古島, 加唐島, 樺島, 熊本, 硫黄島などで記録がある。静岡, 愛知では内陸部にも記録がある。

最近, 各地で *Onthophagus viduus* HAROLD マルエンマコガネが激減しているというが, その原因が不明で不気味である。各地の調査をお願いしたい。北海道・本州・四国・九州・南西諸島と広い分布で, 南西諸島以外ではほとんど見られないという。たしかに京都でも見られなくなった。

Onthophagus japonicus HAROLD ヤマトエンマコガネについても奈良公園からは姿を消したとも言われている。著者の持つ京都府の標本は牛尾山の1969年の1頭のみである。

まとめ

いわゆる普通種が激減するのは環境に何らかの変化が起こっているのであるが, それが目に見えるものであればしかたがないが, 原因が不明であるのはもう少し違った視点での調査が必要である。各都道府県から出されている最近の調査の分析も必要である。

<文献>

- 塚本瑛一(1997) フン虫地理学1 奈良県のフン虫。ねじればね。75:1-3。
 藤岡昌介(2001) 日本産コガネムシ上科総目録。コガネムシ研究会。iv+293。



塚本瑛一(つかもと けいいち)

1930年京都に生まれる。京都府立農林専門学校卒, 応用昆虫学専攻。日本各地, パキスタン, 中国西部を歩く。150種ほどのフン虫の分布について常に考えているが奥が深いと思う。平安女学院大学で自然学の看板を出している。

大阪市長居・自然史博物館の骨格標本作成砂場で採集した甲虫類

河上康子

〒569-0826 高槻市寿町2丁目30-9

筆者は1999年9月より毎月ほぼ1回、大阪市東住吉区長居の大阪市立自然史博物館敷地内に設置されている、脊椎動物骨格標本作成用砂場における甲虫調査を継続している。本報では2001年8月17日までの約2年間、26回分の調査の記録を報告する。

今回の報告に先立ち、資料同定の労を頂いた大原昌宏博士(エンマムシ科)、伊藤建夫氏(ハネカクシ科)、春沢圭太郎氏(コガネムシ科)、岸井尚博士(コメツキムシ科)、生川展行氏(ヒラタムシ上科)に深謝申しあげる。また、調査への便宜を頂いた大阪市立自然史博物館の樽野博幸氏(地史研究室)と和田岳氏(動物研究室)、文献入手にご援助を頂いた宇治市の水野弘造氏に、心より御礼申しあげる。

大阪市内の公園緑地における甲虫相の記録はこれまであまり多くなく、山崎(1993)による1980年代の臨南寺の記録、桂ら(1993)による靱公園の記録、大阪市の調査による記録(1998)などがある。また、大阪府野生生物目録(2000)には、大阪市内から36科229種の甲虫目が収録されている。

調査を行った大阪市立自然史博物館は、242,000平方メートルの長居植物園に隣接し、その西端にはかつて社寺林を擁し、昆虫採集地として知られていた臨南寺があり、大阪市内では数少ない都市緑地の環境を持つ(図1)。博物館圃場には骨格標本作成用の砂場(28平方メートル)があり、骨に少量の筋肉が残った状態の脊椎動物の死体が常時、砂に半分埋没されている(図2)。筆者は1999年夏、骨格標本の作成担当者である樽野博幸氏から、これらの死体に集まる甲虫類の調査を薦めて頂き、現在も調査を継続している。

調査方法は、骨の周囲と付近の砂の中からルッキングにより行った。得られた資料は11科32種640個体、採集者はすべて河上、同定者の記録のあるものを除き、筆者が図鑑・文献・比較標本を用いて同定を行った。大阪市内から初記録となる20種には*印を付した。

今回の記録のうち、ハラジロカツオブシムシ *Dermestes maculatus* DEGEERとアカアシホシカムシ *Necrobia rufipes* (DEGEER)(図3.)の2種については、通年で常時数十個体以上と思われる多数の生息が確認され、冬季も骨の隙間などでの成虫の越冬が観察された。今後も月1度の定点調査を継続し、記録の集積により各種の季節消長や経年変化等を調べてゆきたいと思う。

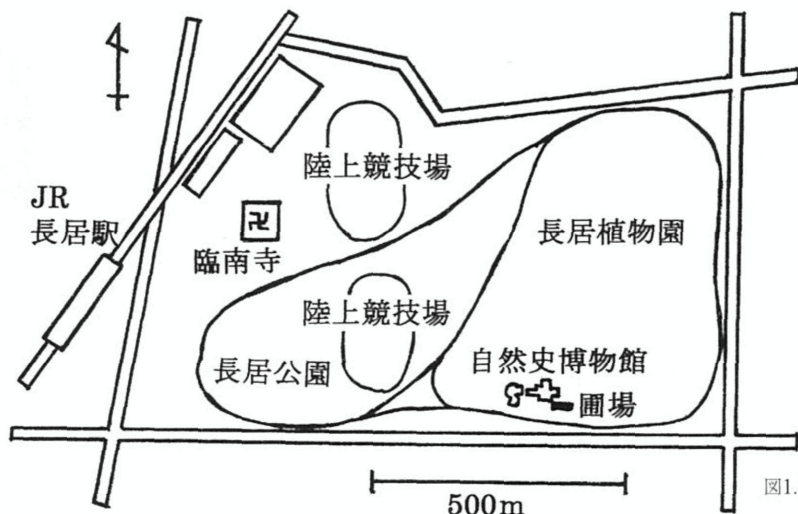


図1. 調査位置図



図2.骨格標本作成砂場



図3.アカアシホシカムシ

なお、資料は特に所蔵を記したものを除き、すべて大阪市立自然史博物館に収蔵されている。

エンマムシ科 HISTERIDAE

ルリエンマムシ *Saprinus splendens* (PAYKULL)

(9 exs. (死体), 3. IX. 1999; 7 exs., 29. VI. 2000; 17 exs., 10. VII. 2000; 1 ex., 28. VIII. 2000; 2 exs., 26. III. 2001)

ニセハマベエンマムシ *Hypocaccus sinae* (MARSEUL)*

(1 ex., 3. IX. 1999, det. M. OHARA et coll.; 1 ex., 20. IX. 1999; 1 ex., 17. III. 2000; 19 exs., 25. IV. 2000; 7 exs., 29. V. 2000; 5 exs., 29. VI. 2000; 1 ex., 28. VIII. 2000, det. M. OHARA et coll.; 1 ex., 26. III. 2001)

クロチビエンマムシ *Carcinops pumilio* (ERICHSON)*

(1 ex., 10. VII. 2000; 1 ex., ditto, det. M. OHARA et coll.; 7 exs., 28. VIII. 2000)

ヒメエンマムシ *Margarinotus weymarni* WENZEL*

(1 ex., 20. IX. 1999, det. M. OHARA et coll.; 1 ex., 26. III. 2001; 1 ex., ditto, det. M. OHARA et coll.)

コツヤエンマムシ *Atholus duodecimsteriatus quinquestriatus* (GYLLENHAL)*

(2 exs., 3. IX. 1999; 1 ex., ditto, det. M. OHARA et coll.; 1 ex., 20. IX. 1999; 1 ex., 29. VI. 2000; 1 ex., 26. III. 2001, det. M. OHARA et coll.)

ハネカクシ科 STAPHYLINIDAE

クロヒメカワベハネカクシ *Platystethus operosus* SHARP*

(1 ex., 29. VI. 2000, det. T. ITO)

クロズトガリハネカクシ *Lithocharis nigriceps* KRAATZ*

(5 exs., 20. IX. 1999, det. T. ITO; 2 exs., 22. X. 1999)

Leptacinus japonicus CAMERON*

(1 ex., 20. IX. 1999, det. T. ITO; 1 ex., 23. II. 2000, det. T. ITO)

カクコガシラハネカクシ *Philonthus rectangulus* SHARP*

(1 ex., 3. IX. 1999, det. T. ITO; 2 exs., 29. VI. 2000, det. T. ITO)

ヘリアカバコガシラハネカクシ *Philonthus solidus* SHARP*

(1 ex., 3. IX. 1999, det. T. ITO; 1 ex., 29. XI. 1999)

キヌコガシラハネカクシ *Philonthus sericans* SHARP

(2 exs., 20. IX. 1999, det. T. ITO)

Gabronthus martimus (MOTSCHULSKY)*

(1 ex., 29. VI. 2000, det. T. ITO)

オオハネカクシ *Creophilus maxillosus* (LINNÉ)*

(1 ex., 29. VI. 2000; 7 exs., 10. VII. 2000)

Gyrophypnus fulgidus FABRICIUS*

(1 ex., 29. VI. 2000, det. T. ITO)

コクロヒゲプトハネカクシ *Aleochara parens* SHARP*

(1 ex., 10. VII. 2000, det. T. ITO)

コガネムシ科 SCARABAEIDAE

スジマグソコガネ *Aphodius rugosostriatus* WATERHOUSE*

(1 ex., 3. IX. 1999, det. K. HARUSAWA)

マグソコガネ *Aphodius rectus* (MOTSCHULSKY)

(1 ex., 17. XI. 2000, det. K. HARUSAWA; 7 exs., 26. III. 2001, det. K. HARUSAWA; 4 exs., 14. IV. 2001, det. K. HARUSAWA)

コメツキムシ科 ELATERIDAE

コガタヒメサビキコリ *Agrypuns (Colaulon) hypnicola* (KISHII)

(1 ex., 20. IX. 1999, det. T. KISHII; 1 ex., 22. X. 1999, det. T. KISHII; 1 ex., 29. VI. 2000, det. T. KISHII)

カツオブシムシ科 DERMESTIDAE

カドマルカツオブシムシ *Dermestes haemorrhoidalis* KUSTER*

(2 exs., 3. IX. 1999; 1 ex., 22. X. 1999; 1 ex., 14. IV. 2001)

ハラジロカツオブシムシ *Dermestes maculatus* DEGEER*

(9 exs., 3. IX. 1999; 9 exs., 20. IX. 1999; 1 ex., 22. X. 1999; 1 ex., 23. II. 2000; 3 exs., 17. III. 2000; 3 exs., 25. IV. 2000; 5 exs., 29. V. 2000; 5 exs., 29. VI. 2000; 10 exs., 10. VII. 2000; 11 exs., 28. VIII. 2000; 9 exs., 28. IX. 2000; 11 exs., 14. X. 2000; 13 exs., 14. I. 2001; 9 exs., 4. II. 2001; 8 exs., 21. II. 2001; 9 exs., 7 exs., 2. III. 2001; 26. III. 2001; 7 exs., 14. IV. 2001; 8 exs., 25. V. 2001; 10 exs., 30. VI. 2001; 2 exs., 23. VII. 2001)

カドムネカツオブシムシ *Dermestes coarctatus* HAROLD*

(5 exs., 3. IX. 1999; 1 ex., 20. IX. 1999; 12 exs., 25. IV. 2000; 1 ex., 29. V. 2000; 1 ex., 10. VII. 2000; 3 exs., 14. IV. 2001; 1 ex., 25. V. 2001; 3 exs., 23. VII. 2001; 4 exs., 17. VIII. 2001)

シバンムシ科 ANOBIIDAE

ジンサンシバンムシ *Stegobium paniceum* (LINNÉ)

(1 ex., 3. IX. 1999)

タバコシバンムシ *Lasioderma serricorne* (FABRICIUS)

(2 exs., 3. IX. 1999)

カッコウムシ科 CLERIDAE

アカクビホシカムシ *Necrobia ruficollis* (FABRICIUS)

(1 ex., 3. IX. 1999; 1 ex., 22. X. 1999; 1 ex., 29. VI. 2000; 1 ex., 28. VIII. 2000; 1 ex., 17. XI. 2000; 1 ex., 25. V. 2001)

アカアシホシカムシ *Necrobia rufipes* (DEGEER)*

(21 exs., 3. IX. 1999; 13 exs., 20. IX. 1999; 10 exs., 22. X. 1999; 8 exs., 29. XI. 1999; 7 exs., 22. XII. 1999; 6 exs., 18. I. 2000; 5 exs., 23. II. 2000; 7 exs., 17. III. 2000; 8 exs., 25. IV. 2000; 8 exs., 29. V. 2000; 8 exs., 29. VI. 2000; 3 exs., 10. VII. 2000; 9 exs., 28. VIII. 2000; 7 exs., 28. IX. 2000; 7 exs., 14. X. 2000; 6 exs., 17. XI. 2000; 6 exs., 14. I. 2001; 17 exs., 4. II. 2001; 6 exs., 2. III. 2001; 11 exs., 26. III. 2001; 8 exs., 21. II. 2001; 8 exs., 14. IV. 2001; 10 exs., 25. V. 2001; 6 exs., 30. VI. 2001; 6 exs., 23. VII. 2001; 6 exs., 17. VIII. 2001)

ケシキスイ科 NITIDULIDAE

キボシヒラタケシキスイ *Omosita colon* (LINNÉ)

(14 exs., 3. IX. 1999; 3 exs., ditto, det. N. NARUKAWA; 10 exs., 20. IX. 1999; 1 ex., ditto, det. N. NARUKAWA; 1 ex., 22. X. 1999; 1 ex., ditto, det. N. NARUKAWA; 1 ex., 23. II. 2000, det. N. NARUKAWA; 3 exs., 17. III. 2000; 1 ex., ditto, det. N. NARUKAWA; 4 exs., 25. IV. 2000)

ヘリグロヒラタケシキスイ *Omosita discoidea* (FABRICIUS)

(2 exs., 17. III. 2000, det. N. NARUKAWA; 3 exs., 25. IV. 2000; 1 ex., ditto, det. N. NARUKAWA; 1 ex., 29. V. 2000, det. N. NARUKAWA; 6 exs., 26. III. 2001; 1 ex., 2. III. 2001; 2 exs., 14. IV. 2001)

ヒメマキムシ科 LATHRIDIIDAE

クロオビケシマキムシ *Corticaria ornata* REITTER*

(1 ex., 25. IV. 2000, det. N. NARUKAWA)

ゴミムシダマシ科 TENEBRIONIDAE

コスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coriaceum* MOTSCHULSKY

(1 ex., 3. IX. 1999)

ヤマトスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coenosum* KASZAB

(8 exs., 3. IX. 1999; 9 exs., 20. IX. 1999; 5 exs., 22. X. 1999; 1 ex., 29. V. 2000; 1 ex., 10. VII. 2000; 8 exs., 28. IX. 2000; 2 exs., 14. X. 2000; 1 ex., 14. I. 2001; 1 ex., 30. VI. 2001)

ガイマイゴミムシダマシ *Alphitobius diaperinus* (PANZER)*

(1 ex., 26. III. 2001)

アリモドキ科 ANTHICIDAE

ヨツボシホソアリモドキ *Pseudoleptaleus valgipes* MARSEUL

(1 ex., 10. VII. 2000)

<文献>

- 大阪市 (1998). メッシュマップ大阪市の生き物: 175-203.
 大阪府 (2000). 大阪府野生生物目録: 67-121, 201-214.
 桂孝次郎・奥野清三・山本博子 (1993). 靱公園の自然: 141-152.
 河上康子・稲畑憲昭 (2000). 関西甲虫談話会資料: 16: 1-28.
 黒澤良彦他編 (1985). 原色日本甲虫図鑑 (III).
 MASUMOTO, K. (1985). ELYTRA 12(2): 27-37.
 山崎一夫 (1993). Nature Study 39 (4): 7-10.



河上 康子 (かわかみ やすこ)

1961年山口県生まれ。広島大学理学部化学科反応有機化学講座卒業。子供(1♀,1♂)を育巢の傍ら甲虫屋に転向。大阪湾を中心に、海浜・河口汽水域の甲虫相調査を手がけている。脊椎動物の死体やそこに集まる甲虫も興味の対象。

宮城県船形山連峰におけるナガクチキムシ科甲虫の追加記録

佐藤 敦

〒981-0933 仙台市青葉区柏木3-20-801

中西秀明

〒981-3201 仙台市青葉区国見ヶ丘2-11-4

栗野宗博

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5-8-61-504

筆者らは、本誌91号にて宮城県船形山連峰におけるナガクチキムシ科甲虫38種の分布目録を報告した。その後も調査を進めたところ、新たに5種の分布を確認できたので報告する。さらに筆者らの報告(2001)以降、宮城昆虫地理研究会諸氏により同地域において興味深い3種が記録されたので紹介させていただきたい。

1. *Stolius vagepictus* ヨツボシキバネナガクチキ (図1)

宮城県仙台市泉区泉ヶ岳芳の平(標高500m), 1♀, 5.V.2001, 中西秀明(採)。

湿地周辺のピーティングにより得た。水野(1997)によれば本種は秋に新成虫が出現することから、越冬個体であろう。宮城県初記録と思われる。

2. *Holostrophus morimotoi* モリモトヒメナガクチキ (図2)

宮城県仙台市泉区福岡筭坂(標高340m), 1ex., 27.V.2001, 中西秀明(採)。

菌類に覆われた直径15cmほどのコナラと思われる立ち枯れのピーティングにより得た。宮城県初記録と思われる。また船形山とは異なった地域ではあるが、低山帯でも本種を得ているので記録しておきたい。

宮城県仙台市太白区鉤取山(標高150~200m), 1ex., 25.V.2001, 佐藤 敦(採)。

マンサク落ち枝のピーティングにて得た。当地は仙台駅から直線距離で約5kmと市街地にほど近い、イヌブナ、ナラ類、シデ類などの広葉樹とモミが混交した天然林である。

3. *Euryzilora lividipennis* ムナクボナガクチキ (図3)

宮城県黒川郡大和町升沢旗坂キャンプ場(標高600m), 1ex., 9.VI.2001, 中西秀明(採)。

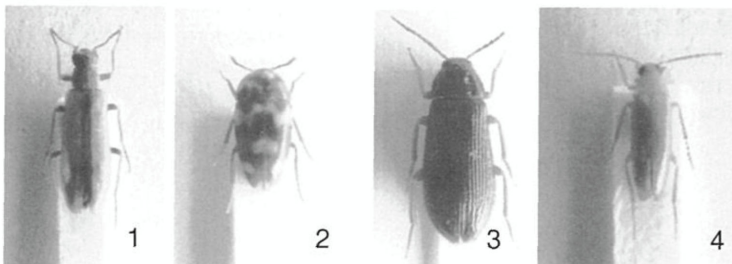
トチノキと思われる立ち枯れの樹皮下に潜んでいた。本種はすでに渡部(1989)、斎藤(1993)により宮城県内の記録が報告されている。

4. *Symphora miyakei* ミヤケヒメナガクチキ (図4)

宮城県黒川郡大和町桑沼(標高800m), 1ex., 7.VII.2001, 中西秀明(採)。

桑沼周辺のブナなどの大木が生い茂る森で、オオキノコムシ類を目的にピーティングして採集したものであるが、採集時の詳しい状況は覚えていない。なお本種はすでに渡部(1989)により宮城県内の記録が報告されている。また船形山とは異なった地域ではあるが、低山帯でも本種を得ているので記録しておきたい。

宮城県仙台市太白区鉤取山(標高150~200m), 1ex., 8.VII.2001, 中西秀明(採)。



1. ヨツボシキバネナガクチキ
2. モリモトヒメナガクチキ
3. ムナクボナガクチキ
4. ミヤケヒメナガクチキ

5. *Osphyra orientalis* アオオビナガクチキ

宮城県仙台市泉区福岡泉ヶ岳芳の平 (標高500 m), 1ex., 7. VII. 2001, 中西秀明 (採).

クリの花のスイーピングにより得られた. ナガクチキとしての分類上の位置に議論があるが, ここでは広義のナガクチキとして記録しておく. なお本種はすでに渡部 (1989) により宮城県内の記録が報告されている.

6. *Mycetoma* sp.

宮城県黒川郡大和町升沢旗坂キャンプ場周辺, 3 exs., 24. XI. 1999, 平館 学ら (採).

宮城昆虫地理研究会の新井孝明氏の私信によれば, 広葉樹立ち枯れのヤケコゲタケと思われる多孔菌に集来していたそうである. 宮城県初記録と思われる. 水野弘造氏によれば東北地方産 *Mycetoma* sp. については, *Mycetoma sapporensis* ムネモンコナガクチキあるいは *Mycetoma affine* チシマコナガクチキとも前胸や触角基節の色が異なる印象があるものの, 今までのところ採集された個体が少なく変異幅が不明のため, 現時点では *Mycetoma* sp. としか云えない状況とのことである. なお *Mycetoma* 属は Tetratomidae キノコダマシ科とする研究者も多いようであるが, ナガクチキは科の区分が不明確な甲虫であることから, 本報告では広義のナガクチキムシ科甲虫として扱っておく.

7. *Eustrophus niponicus* ヒメカツオガタナガクチキ

宮城県黒川郡大和町升沢旗坂キャンプ場周辺, 1ex., 2. VII. 1999, 平館 学ら (採).

従来北海道と京都府のみから記録されていた種であり, 平館らの報告は両者の中間空白域を埋める貴重な記録と思われる. 日本産ナガクチキの中でも最稀種の一つに挙げられており, もちろん宮城県初記録と思われる.

8. *Phryganophilus ruficollis* ムネアカナガクチキ

宮城県黒川郡大和町升沢旗坂キャンプ場周辺, 1ex., 1. VI. 1999, 平館 学ら (採).

本種はすでに渡部 (1989) により宮城県内の記録が報告されている.

以上から, 宮城県船形山連峰で確認されたナガクチキムシ科甲虫は計46種となった. 現在筆者らは, 宮城県単位でのナガクチキムシ科甲虫目録作成を目指して調査を行っている途上であり, いずれ稿を改めて公表したい. 最後に, さまざまご教示をいただいた水野弘造氏に深謝する.

<参考文献>

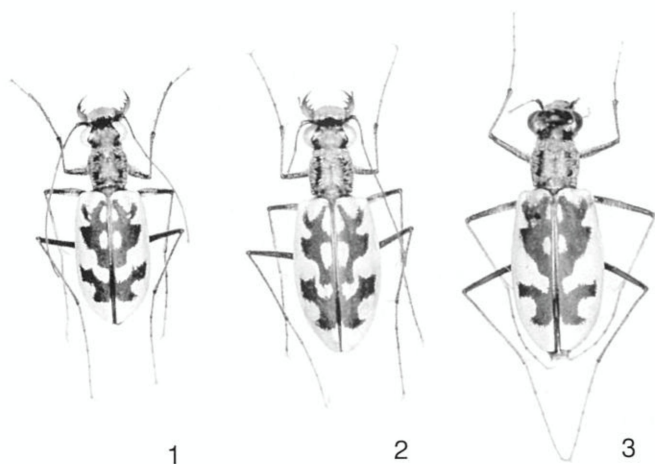
- 斎藤勝雄 (1993) セツク宿町横川における甲虫類の記録, みやぎ昆虫15: 32-34.
 佐藤 敦, 栗野宗博, 中西秀明 (2001) 宮城県船形山連峰におけるナガクチキムシ科甲虫目録, ねじればね91: 6-10.
 平館 学, 新井孝明, 児玉雅一 (2001) 宮城県黒川郡大和町升沢旗坂キャンプ場周辺の甲虫 (3), インセクトマップオブ宮城15: 3-15.
 水野弘造 (1994) ナガクチキ漫談 (9) —九州には居そうにもないナガクチキムシ—, 北九州の昆虫41 (1) : 32-36.
 水野弘造 (1997) 特集・かくれた人気甲虫ナガクチキムシ, 昆虫と自然 32 (2) : 4-8.
 渡部 徳 (1989) 宮城県昆虫誌II, 宮城県の甲虫: 228-231.

京都府におけるカワラハンミョウの記録

芦田 久

〒567-0045 大阪府茨木市紫明園 7-4 久我ハイツ 201

カワラハンミョウ *Chaetodera laetescripta* (MOTSCHULSKY) は海岸の砂丘や大きな河川の河原に生息するが, 日本各地で生息地が失われつつあり, 2000年に公表された新しいレッドリスト (環境庁, 2000) では絶滅危惧II類にランクされている. 京都府下では木津川, 桂川, 宇治川の三川が合



流して淀川となる三川合流地点付近に生息していたことが知られており(伊藤ら, 1997), また大阪府下の淀川下流域でも記録がある(大阪府, 2000a). しかしながら, これら淀川流域では, 近年まったく本種は採集されおらず, 大阪府下では絶滅したものとされている(大阪府, 2000b).

伊藤ら(1997)は1974年の八幡市木津川における記録を1例報告しているが, 標本は図示されていない. 現存する標本自体が少ないため, おそらくこれまで

に京都府産の標本が図示されたことはないと思われる. 筆者は, 1981年に木津川河川敷で採集された本種を検査することができたので, ここに写真を添えて報告する. 筆者自身も, 1990年代に入り数回にわたり淀川流域を調査したが, 本種は再発見できておらず, この1981年の記録は知るうる限りこの地域における最後の記録である.

なお, 筆者は日本全国のカワラハンミョウの黒化率の地理的変異についてまとめたが(芦田, 1998), その際, 淀川流域の標本を検査することができなかつた. 今回の木津川産の標本を同様の方法で評価したところ, ♂は55%, ♀は50%の黒化率と算出され, 愛知県木曾川産の個体の平均値よりもやや低い黒化率であることが明らかになった.

1♂, 1♀, 京都府八幡市木津川御幸橋付近, 18. VIII. 1981, 堀道雄採集・保管(図1-2)

一方, 京都府の北部は日本海に面しており, これらの海岸部にも本種が生息している可能性が示唆されていたが, これまでに正式な記録はなかつた. 非常に古い記録であるが, 京都府の日本海側の標本を確認できたので, これもあわせて報告する. この♀個体は, 西日本の日本海側の個体としてはやや黒化率が高く, 50%であった.

本州日本海側では, ごく最近でも鳥取県や石川県などで本種が確認されていることから, 現在でも京都府下に生存している可能性は残されている.

1♀, 京都府網野町, VIII. 1935, 木村輝夫採集・堀道雄保管(図3)

採集者の木村輝夫氏は双翅目の研究者として著名であるが, 2000年12月30日に逝去された. ご冥福をお祈りする.

末筆ながら, 貴重な標本を検視させていただき発表を快諾された, 京都大学の堀道雄教授に深謝する.

<参考文献>

- 伊藤 昇・高橋 敏・水野弘造(1997) 関西甲虫談話会資料(11): 1-59.
 芦田 久(1998) 月刊むし(333): 5-9.
 環境庁(2000) 無脊椎動物レッドリスト(昆虫類) <http://www.env.go.jp/press/press.php3?serial=1638>
 大阪府(2000a) 大阪府野生生物目録, pp. 1-352.
 大阪府(2000b) 大阪府における保護上重要な野生生物, pp. 1-443.

こうひい・ぶれいく (話のたね) — 6 —

採集用具あれこれ (1)

吉田正隆

〒770-0047 徳島市名東町 1-295-1

昆虫の採集や調査には多種多様の用具が必要である。たいていの用具は専門店のカatalogに載っており購入することができる。

私は、釣り好きの祖父が魚釣りの用具を毎日のように考案し、時には市販材料に自分なりの改造を加えては仲間に講釈していたのを幼い頃から見してきた。その影響を受けたせいも、色々なことを考えるのが好きであり、今でも時間さえあればホームセンターや釣具店の品々を眺め、本来の用途に加えて昆虫の採集調査用具に応用できないだろうか……などと品定めするのが習慣になっている。

職場の同僚や友人達からは笑われるほど、何か便利なものはないだろうか、あの虫を採る為のより優れた方法はないだろうかと思いをめぐらすことの毎日でもある。

先の「新版 昆虫採集学」(平嶋・馬場, 2000)には、採集調査の方法から標本の作成、保存方法までこれまでの知見が見事に紹介されており、私の座右の書となっている。

しかしながら、必要は発明のもとであり、私なりに色々と考案したグッズも少なくない。地元の虫の会の例会のたびにそれらを紙面に紹介するように云われてきたが、私の考えることくらい誰でも思い付くもので、わざわざ紹介するほどのものではないと思ってきた。ところが、この度、私にとっては画期的なものを入手することができたのでここに紹介し、今後、私の採集調査グッズを折りにふれ紹介することとしたい。

その1 「電池式吸虫管」

2000年7月2日に高知県で開催された日本昆虫学会四国支部第40回大会後の採集調査会の折、タケノコを採った残渣が積まれていた中に多数のハネカクシやエンマムシがいるのを見つけた。残渣は積まれて数日を経過しており、カビが生えたり腐敗したりしていたので、走るハネカクシや転がるエンマムシを1頭ずつピンセットで挟んで殺虫管に入れていると、愛媛大学農学部昆虫学研究室の酒井助教授がやって来て、ポケットから筒状の電動吸虫管で吸い取りだした。かつて小田原市在住の見山 博氏が手のひらに入るような電動吸虫管を試作しており、私にも作ってほしいと伝えてあったが未だに作ってくれない。何とか自分で作ってやろうと思ったが設計もできないでいた。ところが酒井博士の持っているものはまさしくこれまで私の脳裏にあったものそのものであった。手に取って見せていただいたが、直径3 cm、長さ10 cmの筒状の後部に電池が入り、前部に風を送るモーターとファンが付いている空気抜き装置に小さな直管式の吸虫管を取り付けてあった。初めて見るものであったが、これこそ究極の吸虫管と思ったので購入先をたずねたところ、デパートで時折行われる便利グッズフェアに出るとのことであった。以来、近くで開催されるそうした催し会場をその都度見に行ったが出ていない。東京駅地下の「王様の発明」という店で小さな掃除機を見つけたが、どうも加工がしにくい。そこで酒井博士に松山市で同様の催しがある場合、何とか購入してほしいと依頼してあったところ、購入して、ついでがあったのと言ってわざわざ拙宅まで届けて下さった。既にこの品を用いて吸虫管として活用されている方がいるかも知れないが、私はこれを初めて利用したのは酒井博士と思っている。ここで私がこの活用方法を述べるのは当を得ないかもしれないが、その有効性の確認をしたので酒井博士の了解と当該製品の販売元である(株)ヨシユキ企劃の了解をいただいて紹介する次第である。

製品名は「キッチン パッカー」または「キッチン バキューム パッカー」で、本来の用途は

生鮮食品保存時の袋の空気抜きである。先に述べたとおり直径3 cm、長さ10 cmの本体に吸入口用の逆ロート12.5 cmが付いている(図1)。

本体に単4電池4個が入り、スイッチによって小型モーターに取り付けられたファンが回って空気を吸って放出するものである。前部の吸入口を除いて、代りに直管式吸虫管を取り付けると立派な電動吸虫管となる。この際、吸う側には補虫網の切れ端でメッシュを付け(既製品で本体の吸入口にメッシュの付いたものもある)、虫の入って来る側には逃亡防止の弁を付けるのは当然である。なお、吸虫管部にはポリエチレン系の筒状容器に入った清涼菓子(ラムネ菓子?)の容器(図2)を利用(低部から41 mmで切断すると、本体にぴったり着く(図3)ので便利である。

糞虫や汚物、死体など直接口での吸虫がはばかれる小甲虫等の採集には誠に便利な装置である。

本体価格:1780円(税別:2001年12月時点)

発売元:株式会社ヨシユキ企劃 東京都新宿下落合1-5-10 三越高田馬場マンション419

TEL 03-3360-1261 FAX 03-3360-0916

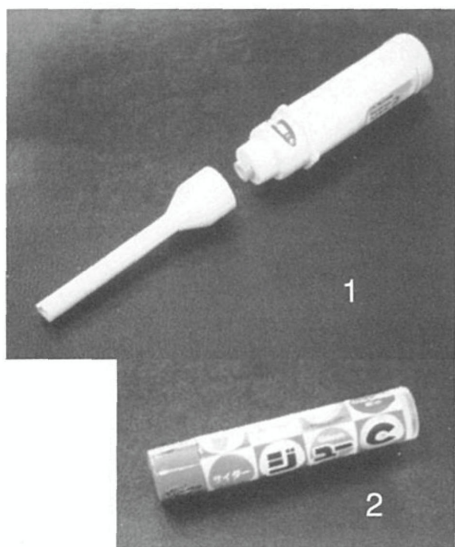


図1. キッチン バキューム パッカー全体図
(本体吸入口にはメッシュをリングでセットしてある)

図2. 清涼菓子(ラムネ菓子?)の容器

図3. 完成品(キャップの中にはコルフ栓またはシリコン栓でチューブを固定してある)



[編集部 註]

本稿はメーカーの宣伝として書かれた文ではありません。昆虫採集用として開発されたものでもありませんし、現在競合品として目的に合致するものが容易に入手できる状況でもありませんので、吉田さんに発売元の紹介もしていただきました。興味を持たれた方は直接発売元にお問い合わせ下さい。

＝新刊紹介＝

大澤省三・蘇 智慧・井村有希(2002):「DNAでたどるオサムシの系統と進化」, B5判, 264頁, 哲書書房, 定価9800円(税別).

オサムシ研究への道のり—材料の収集と採集紀行—分子系統樹—オサムシ亜科の系統と分布—オサムシ亜科の系統各論—分子系統からみたオサムシ亜科の再構成—日本列島におけるオサムシ相の成立—日本列島のオサムシ各論—オサムシ多様化のパターン—オサムシの系統と分類.

すばらしい本が出た。昆虫の系統進化を分子生物学レベルで語る。材料は表題のようにオサムシ類であるが研究の方法と論旨の進め方は普遍妥当性が高く、広い範囲の学徒の参考となる。その根拠は第3章を見れば判るが、大澤には全生物のリボソームを対象にした系統進化の輝かしい業績もある。まず研究の動機から始まる。井村は「世界のオサムシ大図鑑」の著者で世界中の標本を持って

いるが、DNA用に新たな収集を必要とした。そして新進の蘇がチームに加わった。まず、分子系統樹はどのように作られるかという基本的な方法から始まる。日本産全種はもちろん、主要地域個体群を網羅し、世界を対象に材料が集められ、ミトコンドリアDNAが分析される。多くの協力者がいたとはいえ、わずか8年間にこれだけの成果を上げられたことは驚くほかはない。ピッカピカの大型美麗甲虫は標本箱に並べるだけでも魅力的なのに、飛べないオサは地理的分化が著しく狭い日本列島での研究成果がすばらしい。同時に世界規模の集大成に脱帽したい。

長い時間での進化は中立説が成立するが、短期間での「一斉放散」があり、一般的な漸進的進化のほかに、形態の不連続進化(「動」の進化)と、生きた化石という「静」の進化が例示されている。そして、さまざまな進化パターンが絶対年代の数字を伴って、地史上の具体例として説明される。それが、一冊の単行書の構成と明快な論旨によって、頁が進行する。すばらしい本のもう一つは、虫の写真だけでなく、地図や図表もオールカラーの色彩表現で工夫され、内容の理解を助けている。黒表紙に金文字、黒地に白抜き文字・地球儀と一匹のオサムシ、装丁も気に入った。価格もこれだけの体裁を考慮すると決して高くはない。(佐々治寛之)

◎小笠原 隆・高木真人・和田洋介(2001):「香川県のカミキリ」, 79 PP.+2 原色図版+写真図版, (A4判)。—— 著者によれば3年余りの歳月を費やしての完成とあり、豪華なおオトラカミキリの原色図と共に全208種の県産全種の採集データ・解説はまことに素晴らしい。自刊のため購入希望の人は、著者の高木真人氏(Fax: 087-879-6845)に申しこむか、[HTTP://WW81.TIKI.NE.JP/~MTAKAGI/](http://ww81.tiki.ne.jp/~mtakagi/)より購入可能。2600円(送料別)の由。

虫屋の広場(38)

地域別総合甲虫目録[XV]

◎区市町村単位目録・小地域目録(その12)

01. 愛知県旭町

蟹江 昇ら(13名) 旭町のコウチュウ目、「旭町の昆虫」(名古屋昆虫同好会・編,[財]旭高原自然活用村協会・発行), 89-173. [79科, 858種].

02. 愛知県豊田市

蟹江 昇(2001) 1995-1999年の調査における豊田市都市ブロックの矢作川河辺の昆虫類 2 コウチュウ相から見た河辺の自然環境, 矢作川研究, (5): 47-67. 甲虫目録:229-236. [65科, 606種].

03. 広島県比和町

秋山美文(1997-2000) 比和町越原の甲虫類(1-2), 広島虫の会会報, (36): 31-33. (39): 63-66. [種数不詳]

04. 神奈川県相模原市

大塚康司(2000) 鶴野森で採集された甲虫類, 「水と緑と生き物たち一境川流域/斜面緑地・動物総合調査報告書」, (3): 53-57. [22科, 111種]

高橋耕司(2000): 鶴野森の昆虫, 「水と緑と生き物たち一境川流域/斜面緑地・動植物総合調査報告書」, (3): 74-91. 甲虫目: 80-85. [44科, 214種]

会 報

会費納入のお願い

本学会の会費は前納制です。会員各位の会費納入状況は封筒の宛名の下に記入してあります。2003年度(第58巻分)会費5000円を未納の方には振替用紙を同封させていただきましたので、早急にお納め下さい。また、従来発行していました領収書(会員証)は事務処理の軽減と経費節約のため今後は発行しませんが、必要な方はその旨御連絡下さい。したがって、振替用紙の控は領収書として保存しています。会費について何か不明な点がありましたら、会計(野村英世)まで御連絡下さい。

＝お詫び＝

“ねじればね”の発行が大変遅れて会員の皆様にご迷惑お掛けしお詫びします。編集担当の伊藤建夫のパソコンがダウンしてしまって、書類が開かなくなり処理出来なくなってしまいました。取りあえず林 靖彦が処理を担当したのですが、次号からは保科英人氏を含めて編集に当ります。

(運営委員会)

発行：2002.12.15. 日本甲虫学会(会長 佐々治寛之)
 (本部) 〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付
 振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>
 Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

ねじればね原稿送付先(和文, E-mailでの投稿を歓迎します)

伊藤建夫 〒614-8371 八幡市男山雄徳 8 E7-303 Tel.(Fax) 075-983-3491

E-mail: itokyoto@gb3.so-net.ne.jp

保科英人 〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学教育地域科学部地域環境講座

Tel & Fax: 0776-27-8692 E-mail: hhoshina@edu00.f-edu.fukui-u.ac.jp

水野弘造 〒611-0002 宇治市木幡熊小路 19-35 Tel.(Fax) 0774-32-4929

E-mail: kzmizuno@oak.ocn.ne.jp

入会及び会費問合せ先(年会費 5,000円, 入会金は不要)

野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 Tel. 0722-98-4066

昆虫学評論原稿送付先(英文)(昆虫学評論参照)

安藤清志, 芦田 久, 林 靖彦